



7月28日、タイ政府は非常事態宣言を8月31日まで1カ月延長することを閣議決定した。市中感染が2カ月間ないことから、タイの暮らしは平常に戻りつつある。一方で、外国人観光客をはじめ、海外からの出張者の受け入れについては、引き続き感染防止のための行動制限がある。観光地や飲食店、レストランの活気が戻るまでには今しばらく時間がかかると思われる。

7月に入り、各種学校も再開した。技能実習生の送り出し機関もオンライン授業と並行して実習授業が再開している。「介護」を専門とした技能実習が始まった送り出し機関を訪ねた。介護実習の1期生は20人。多くはタイ東北部の

タイの技能実習授業

「日本の介護担う」情熱

高等専門学校の卒業生で、家族と離れて寮生活を送っている。

実習は「密」を避けるために朝

・昼・夕の3部体制で、訪ねた教室には指導者1人と実習生5人がいた。高齢者に見立てた人形がベッドに置かれ、実習生が「大丈夫ですか?」と声を掛けながら体を起こし、車いすに移動させる訓練を行っていた。指導するのは日本で介護現場を長く経験してきた日本人。訓練は全て日本語で進められている。机に置かれた教材ノートを見た。介護の専門用語に振り仮名があるものの、漢字で書かれていた。実習生のほとんどが介護実習と日本語を同時に勉強しなければならぬ。机の上には使いこなされた辞書が置いてあった。実習生たちは日本語検定4級取

得が必須。さらに介護の単科大学で1カ月半の実習を経て修了となる。既にクラスの20人のうち12人



日本語で介護を学ぶ実習生。タイ・バンコク市内

が来年1月に日本へ向かう準備をしている。しかしながら、コロナ禍、日本語検定試験が先延ばしとなっていることや、日本側での外国人技能実習生の受け入れが、検査もあってスムーズに進まない状況にある。

自分の体より大きい人形を抱え奮闘していたジョーエンさん(24)は「早く日本に行きたいです」。クラスで唯一日本語検定4級の資格を持つクラタイさん(23)は、静岡の施設が受け入れを決めていることもあり「何も不安はありません」と話す。2人とも希望と自信に満ちていた。

高齢化社会である日本は、介護人材が不足しており、外国人による介護ニーズが増加している。タイ人の「人を想(おも)う優しさ」は介護現場で生かされるに違いない。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)